速報

第151回臨時代議員会

長瀬会長挨拶

北海道知事の来賓挨拶

◆平成30年度事業計画・予算を報告

◆平成29年度会費減免につき承認決定

◇総　務　部◇

第151回臨時代議員会を去る３月18日（日）、当医師会館８階会議室において開催した。

冒頭、本間議長により開会宣言があり、議事録署名人（芦別市・藤嶋　彰　代議員、上川郡中央・藤原正文　代議員）を指名した。その後、長瀬会長より挨拶があった。

挨拶（長瀬会長）

第151回北海道医師会代議員会開催に当たり、一言ご挨拶申し上げます。

代議員の皆様には、年度末何かとお忙しい中、また日々の診療でお疲れのところ、ご参集いただきありがとうございます。

日頃、北海道医師会の諸事業遂行に当たり大変ご尽力いただいておりますことに、心より感謝申し上げます。また、北海道・高橋はるみ知事様には、公務ご多忙のところ、ご臨席賜りありがとうございます。なにかと問題の多い医療行政を着実に進められておりますことに感謝を申し上げます。

今年は、この蝦夷地が北海道と命名され150年という記念すべき年で、様々な催しが計画されています。ご成功を心から願っています。この後ご挨拶いただきたいと存じますのでよろしくお願い申し上げます。

本日の代議員会は、報告事項として、平成29年度補正予算、ついで当会が今後１年にわたって遂行する、平成30年度事業計画および平成30年度予算の報告をさせていただきます。

議案審議として、欠員のある北海道医師会裁定委員および日本医師会代議員補欠選挙、そして次期の日本医師会代議員および予備代議員の選挙を行うことになっております。その後、当面の医療政策に関し、ご討論をいただくこととしておりますので、活発なご討議をお願いいたします。

今年は６年ぶりの診療報酬と介護報酬同時改定の年にあたり、昨年末に本体改定率が診療報酬は＋0.55％、介護報酬は＋0.54％と決定しました。マイナス改定が強く懸念されていましたので、プラス改定となりひとまず安堵いたしました。その後、報酬の詳細が検討され、２月に具体的内容が決定し、加藤厚労大臣に答申されました。

４月１日実施に向けてこのあと各地で伝達説明会が行われます。以前から診療報酬の簡素化を強く要望してきましたが、この度も以前に増して複雑化し、青本も厚みを増しているようです。厳しい経営状況

にある医療機関にとってまさに報酬点数の１点、２点が死活問題であります。医師、職員とも十分に研究、検討をいただきたいと思います。

今、来年の賃上げ交渉が始まっております。安倍首相の要請もあり、大手企業から３％程度の上昇率が提示されて、一般的になりそうな成り行きです。医療界においては同等の上昇率には診療報酬のさらなるアップが必要といわれています。今回の改定率ではそれには到底及ばないものです。

団塊の世代の方々が総て75才を超え、後期高齢者入りをし超高齢社会となる2025年にむけて、病床の在り方が検討され、一昨年地域医療構想が策定され、それを基に30年から始まる医療計画、介護保険事業計画の策定が行われました。2040年まで超高齢社会が続きます。医療機関における病床分化や、包括ケアシステム構築が課題となり、地域医療構想を策定し、それを基に今年から新たな医療計画や介護保険事業(支援)計画をスタートさせます。2040年高齢化がピークを過ぎるまで計画的に進められます。この間、健康寿命延伸に意を尽くさなければなりません。医師会も皆様の努力を支えていくよう共に頑張ります。

今年の冬期オリンピックでは日本選手が大活躍し、日本中を興奮の渦に巻き込み終了しました。一方、オリンピックを利用して北朝鮮は韓国に急接近し、日、米、韓三国対北朝鮮の関係は変わりそうです。加えて米国と北朝鮮の関係も変わりつつあります。また、英国とロシアの対立も険悪な状況で、世界が変わる兆しがあります。

日本国内の政局も、森友学園問題で混乱し、行く末不透明な状況です。何処に落ち着くか大変気になるところです。

経済も日銀が黒田総裁続投となり、これまで通りの低金利政策を持続するのであれば、我々の関与する公益財団法人は手持ちの基金では事業遂行は厳しい状況に陥ります。何とかしてほしいと願っております。

最後に、本年も、変わらぬ絶大なるご支援をいただきますようお願い申し上げ、代議員会開催にあたってのご挨拶といたします。

よろしくお願い申し上げます。

◇

続く来賓挨拶にて、北海道・高橋はるみ知事より祝辞をいただいた後、議案審議に入り、議案第１号「裁定委員補欠選挙」、議案第２号「日本医師会代議員補欠選挙の件」、議案第３号「日本医師会代議員選挙の件」および議案第４号「日本医師会予備代議員選挙の件」については、前号掲載の選挙結果のとおり選出された。

議案第５号「平成29年度会費減免に関する件」については、平成29年度に申請のあった申請者の会費減免につき理事者提案のとおり承認された。

次いで、平成29年度補正予算、平成30年度事業計画ならびに平成30年度予算について、理事者からの報告を承認した。

その後、当面の医療政策について、理事者よりそれぞれ「総論」(笹本常任理事)、「診療報酬改定」(橋本常任理事)、「介護報酬改定」(岡部常任理事)、「新専門医制度」(小熊副会長)、「日医生涯教育制度」(櫻井常任理事)の説明があり、最後に笹本常任理事より本代議員会の名において決議文作成の提案がなされた。

昼食休憩後、代表質問ならびに一般質問を受け、理事者からそれぞれ答弁を行った。

◇代表質問◇

１．荒木　啓伸　代議員（中央ブロック）
「控除対象外消費税問題について」
(答弁者：岡部常任理事)

２．長谷部　千登美　代議員（道北ブロック）
「女性医師支援について」
(答弁者：深澤副会長)

３．柿木　滋夫　代議員（後志ブロック）
「北海道医師会における大規模自然災害、犯罪被害、事故等発生時の体制について」
(答弁者：目黒常任理事)

４．平山　繁樹　代議員（道南ブロック）
「北海道における医師会共同利用施設に対する北海道医師会の認識と協力体制および地域医療介護総合確保基金（横倉基金）について」
(答弁者：伊藤常任理事)

◇一般質問◇

１．白崎　修一　代議員（札幌市）
「あはき療養費について」
(答弁者：深澤副会長)

２．西川　秀司　代議員（札幌市）
「医師地域偏在・診療科偏在問題について」
(答弁者：小熊副会長)

３．向井　正也　代議員（札幌市）
「精神科の基準病床について」
(答弁者：笹本常任理事)

４．三木　敏嗣　代議員（札幌市）
「子どもの医療費の助成拡大について」
(答弁者：橋本常任理事)

５．　立花　　啓　代議員（札幌市）
「医師の労働時間短縮に向けた緊急的な取組（骨子案）について」
（答弁者：小熊副会長）

６．　後藤　　琢　代議員（函館市）
「北海道の事情」
（答弁者：小熊副会長）

質問終了後、起草委員会で検討した決議案（別掲）を採択した（この決議文は日本・都府県・郡市医師会、政府閣僚、政党、国会・道議会議員、知事、道内自治体首長、「日本の医療を守る道民協議会」構成団体およびマスコミほか関係各方面に送付し、各項目の実現に向けて要請した）。

最後に、長瀬会長より閉会の挨拶が行われ本代議員会の全日程を終了した。

〈事業計画・予算関係、質疑応答等は、順次当会ホームページに掲載予定〉

決　議

国連児童基金(ユニセフ)は、世界各国の新生児死亡率を比較する報告書を発表し、「赤ちゃんが最も安全に生まれる国」として日本を高く評価した。世界医師会長に就任された横倉義武日本医師会長は、「生涯保健を通じて健康寿命の延伸を目指すとともに、わが国の優れた医療技術をグローバルな形で広げていきたい。」との考えをお持ちである。日本が、G8 を始めとした国際的な会議の舞台において“ヘルス”をテーマに取り上げ続けていることは我々の大きなレガシーである。

平成 30 年度は 6 年ぶりの診療報酬・介護報酬の同時改定であり、北海道においては、第７次北海道医療計画や北海道保健医療福祉計画をはじめとした合計 17 本の計画がスタートする“惑星直列”の年である。道内各地域の状況を十分に考慮しながら慎重に計画を進めていく必要がある。

われわれ医師は一致団結し、国民が安心して日常生活を送ることができるように良質な医療を確保・提供し続けなければならない。

その実現のため、以下の事項を決議する。

記

一、世界に冠たる国民皆保険を堅持すること

一、十分な社会保障費を確保し、今以上の保険診療の萎縮と患者の医療費負担増を招かぬよう配慮すること

一、医療と介護の連携のもと、地域医療構想の具体的展開や地域包括ケアシステムの構築に十分資するよう、地域医療介護総合確保基金をさらに柔軟に活用できる仕組みとすること

一、医師不足、医師の地域・診療科偏在への対応については、地域の実情を十分に尊重すること

一、医師の働き方改革については、国民が求める医療ニーズに対応できるようにしつつ、職業としての専門性と独立性を十分に尊重しながら進めること

一、新専門医制度は、地域医療の崩壊を招くことのないよう実施するとともに、医療関係者はもとより国民からも信頼される制度とすること

一、メディカルウイング(医療優先固定翼機)については、社会的ニーズに対応可能なように計画搬送以外にも適用範囲を拡大すること

平成 30 年 3 月 18 日

一般社団法人北海道医師会
第 151 回臨時代議員会